

登別市事業仕分け調書

平成 22 年度作成

番号	B - 2	事務事業名	中学生海外派遣事業
-----------	-------	--------------	-----------

部 名	総務部	グループ名	企画 G
------------	-----	--------------	------

事務事業コード	62213001	事業開始年度	平成 4 年度	事業終了予定年度	平成 年度
----------------	----------	---------------	---------	-----------------	-------

関連事務事業名	
----------------	--

事務事業の実施根拠 (根拠となる法令・条例・規則・要綱等)	種別	5 市単独で実施している事務事業
	法令等名	登別市中学生海外派遣事業実施要領 登別市中学生海外派遣事業補助金交付要領
	法令等の内容	目的、派遣計画、応募要件、派遣者・引率者の決定、経費補助等について 目的、補助対象者、補助対象経費、補助金の額、補助金の申請等について

実施方法	市が直接実施
	民間等へ業務委託または指定管理 (委託先:)
	補助金 (補助先: 登別市中学生海外派遣団)

事務事業の目的と内容

対象	(何を対象にまたは誰を対象にした事務事業なのか。地域や年齢等が限定される場合は詳細に記入)
	市内中学校(中等教育学校含む)に在学する中学2年生
事業の目的	(何のために事業を実施したのか。または何のために事業を実施しているのか)
	登別市の次代を担う青少年に、諸外国の生活や異なる文化を体験させ、国際理解を深め、国際的な視野に立つて行動できる人材を育成する。
事業の内容	(事業の内容【手段・手法・活動など】)
	友好都市であるデンマーク王国ファボー・ミッドフュン市に、中学2年生を6名派遣する。現地では、ホームステイし、生活や文化を体験する。ホストファミリーの子どもと通学し、授業を体験するとともに同年代の生徒との交流のほか、ファボー・ミッドフュン友好協会の会員等との交流や歴史的建造物等を視察する。派遣前には、英会話や訪問国の文化や歴史などの事前研修を10回開催する。このうち1回は、過去に派遣された生徒と懇談をし、派遣に備えて理解を深めている。帰国後は、報告書作成などの事後研修を3回開催している。派遣された中学生は、在学する中学校において体験報告会を開催するとともに、報告書を作成。報告書は、市のホームページで公開している。

事業費

区 分			単位	20年度 決算額	21年度 決算見込額	22年度 予算額	
事業の 財源 内訳	国庫支出金	名称	千円				
	道支出金	名称	千円				
	その他	名称	千円	2,224	0	2,450	
	地方債			千円			
	一般財源			千円	34	0	40
	合 計				2,258	0	2,490
上記事業を実施するために 必要となる人件費(概算)	職 員	千円	1,362	167	1,361		
	嘱 託 員	千円	413	74	456		
	臨時職員	千円	0	0	0		
	合 計			1,775	241	1,817	
総合計(合計 + 合計)			千円	4,033	241	4,307	

事業費内訳	(22年度予算ベースの事業費の具体的な内訳【節名ごと】)
	報償費 訪問先への記念品 40,000円 旅 費 引率者旅費費用弁償380,000円×2名 = 760,000円 負担金・補助及び交付金 派遣団補助金 交通費・宿泊費240,000円×6名 = 1,440,000円(市8割、保護者2割負担) 団体経費 250,000円

番号	B - 2	事務事業名	中学生海外派遣事業
----	-------	-------	-----------

部 名	総務部	グループ名	企画G
-----	-----	-------	-----

活動実績

活動指標名 (事業のこれまでの実績【数量・回数・人員等】)	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込み)
派遣生徒数	人	107	107	113

成果

事業の成果	(事務事業を実施したことでのどのような成果が得られたのか。現状の成果)
	<p>当派遣事業を通じ、将来を担う生徒たちが異国の文化や生活習慣に触れることにより日本との相違を実感し、視野を広げるとともに、日本や自分の住むまちを見直す良い機会となっている。</p> <p>平成2年7月登別マリンパークの開園を機に、ファボー・ミッドフュン市と登別市との友好交流がはじまり、登別市においては、平成4年度から中学生の派遣事業を開始し、ファボー・ミッドフュン市からの研修生の受入や登別デンマーク協会の自主事業として会員を派遣する事業が行われている。一方、ファボー・ミッドフュン市においては、登別からの派遣中学生の受入の協力やファボー・ミッドフュン市友好協会の設立など、双方の市民訪問による友好交流と相互理解が深まっている。平成9年5月には、両市の両協会の活動を支援する「友好の絆」の提携、平成19年6月には、市民交流、文化交流の推進を目指す「友好都市協定」を締結している。</p>

担当部による評価

事業の自己評価	(事業の今後の方向性、課題等)
	<p>20年間に及ぶファボー・ミッドフュン市との親密な交流を通じ、デンマーク国の理念として「人が資源」であること、「国民は大切な財産」とされていることを学んだ。デンマーク国は、国民の教育水準は高く、「高福祉、高負担」の先進国として知られ成熟した社会を築いている。日本にとって学ぶことが多い先進国デンマークへ中学生を派遣することは意義深い。事前研修を経て、現地での体験は、中学生という多感な時期に、派遣者にとってかけがえのない経験となっている。海外に行くことによって、自分たちの住む国やまちを再認識することとなり、登別を愛し、世界的な視野で物事を考え、判断しながらふるさとを支え、発展させることができる人間に成長してくれることにつながる。引き続き本事業を継続させたいが、事業費に充てている「いきいき人とまち基金積立金(ふるさと創生分)」の底がついたため、平成23年度以降一般財源から持ち出しとなる。市からの補助割合の検討が必要。</p>

他の自治体の状況

比較参考値	(他の自治体での類似事業の状況)
	<p>室蘭市：中・高生ノックスビル市派遣事業～平成2年度から、姉妹都市のアメリカ合衆国テネシー州ノックスビル市に派遣。現在は、中学生12名(うち、2名は団体の推薦枠)。保護者負担は2割。</p> <p>壮瞥町：壮瞥町中学生フィンランド国派遣事業～平成7年度から、友好都市のフィンランド国ケミヤルヴィ市に町内の中学2年生希望者全員を派遣。保護者負担は、パスポート申請にかかる費用、旅行保険、ホームステイ先へのおみやげ代など。</p> <p>白老町：国際姉妹都市ケネル市訪問交流事業～平成10年からは、姉妹都市のカナダケネル市へ小学5年生から中学2年生20名～25名を隔年で派遣。町内のNPOに引率者の旅費、現地での移動費等を補助。参加者の旅費は、全額保護者負担。</p> <p>苫小牧市：こども国際交流事業～平成12年から友好都市の中国河北省秦皇島市へ、市内15校の中学生15名を派遣。保護者負担は2割。補助事業として、姉妹都市ネーピア市へ昭和56年から毎年、高校生2名を派遣。苫小牧ニュージーランド協会へ事業費の8割を補助している。</p>

特記事項

事業の沿革等	(事業の変遷)
	<p>平成元年「ふるさと創生事業」として国から1億円が交付され、その使い道を市民で構成された「いきいき人とまち推進会議」で検討が行われた。「まちづくりは、人づくりから」の観点から、人材派遣事業など、国内や海外に個人やグループで研修させる様々な事業が提言された。その一つが、中学生海外派遣事業である。本事業は、交付金を原資に平成4年度から開始され、これまで中学生・引率者合わせて、156名がデンマークに派遣されている。この間、行程の変更や派遣期間の短縮、引率者1名の削減などの見直しを行ってきたが、平成22年度をもって原資の「いきいき人とまち基金積立金(ふるさと創生分)」が底をついたので、平成23年度以降、一般財源からの持ち出しとなる。</p>